

SHIRAKOBATO

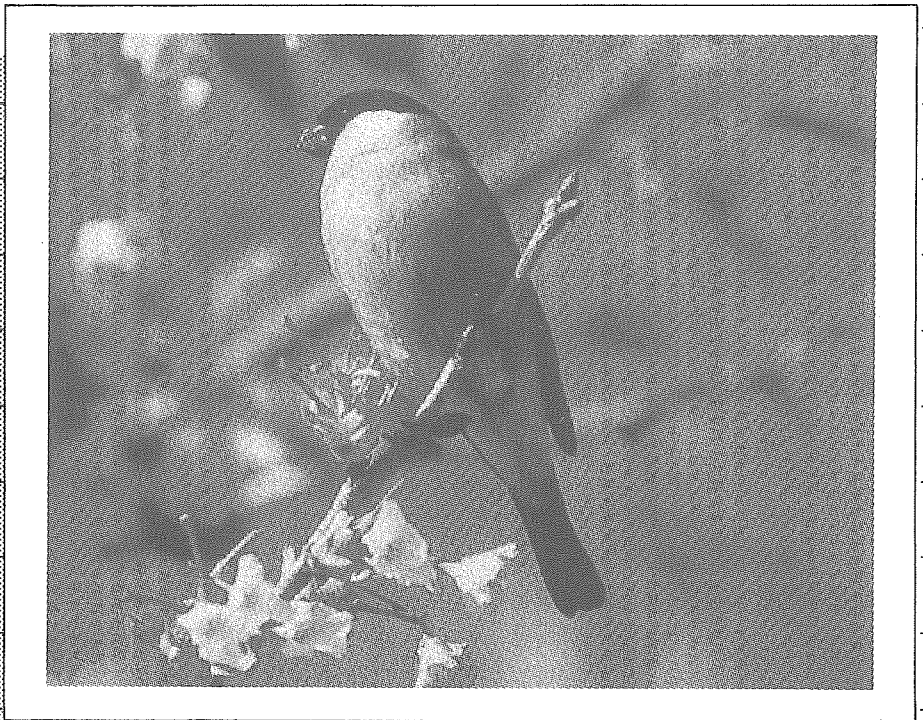
しらこぼと



1993. 3

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 106

日本野鳥の会 埼玉県支部

自然環境のあるべき姿を考えよう！

—— 地域の新旧の地形図を手がかりに ——

■はじめに

人間と自然のかかわりあいを見る事は、人間による「自然改変の歴史」（小荷田1986他）を調べ、あるべき自然環境の姿を考える事です。ある地域の自然改変を調べる時、誰でも手軽にできる方法のひとつは、新旧の地形図による比較です。

■なぜ、地形図で！

自然改変の歴史を調べるには、地表の様子が詳細に描かれている地図が必要になります。このような用途に一番適しているのは、世界各国の政府が発行している大縮尺の官製の地形図です。日本では国土地理院が刊行している5万分の1や2万5千分の1の地形図がそれに当たります。

一般に各国政府の発行する官製の地形図は、同一地域について測量が継続的に行われています。日本の場合、首都圏や近畿圏の中心部では2年毎に、登山などが盛んでない山岳地帯などでは20年に1回の周期で測量が実施され新しい地形図が毎年刊行されています。

官製地形図においては、時代が移り変わるにつれて植生など地表の様子を記号で描く図式は少しずつ変化してきていますが基本的には継承されています。図式の継承性は測量年の異なる地形図を比較して自然改変の歴史を見るためには視界上重要なポイントとなります。この点からも官製地形図は図式の継承性が維持されているために適しています。

■新旧の地形図を揃えよう

皆さんの家には、ハイキングや登山のために、また学生時代に地理の勉強のために授業で使った5万分の1や2万5千分の1地形図が眠っていると思います。まず、そのような古い地形図を探し出して下さい。次に地形図の販売店に行き、探し出した古い地形図と同じ地域の地形図を購入して下さい。これで新旧の同じ地域の地形図が2枚揃った事になります。

■自然改変の移り変わりを調べよう

新旧2枚の地形図を比較しながら見てゆくと時代時代の政治、経済的背景によって行われた自然改変の特徴が読み取れます。

北海道の石狩川下流やサロベツ原野などの沖積平野においては、湿原に放水路が掘られ、水田や牧草地へと農耕地化が昭和20年代から30年代にかけて進んでいます。東北脊梁山脈や中部山岳地帯では、昭和50年代以降林道が山奥まで整備され、新道沿いのブナ林などの自然林が伐採されスギなどの植林地に変わっている事を示しています。東京湾や大阪湾に昭和30年代前半まで存在した多くの干潟は全く無くなり全て埋め立て地になり、近くの丘陵地帯には埋め立て用の土砂として使われた山肌が無残な姿をさらけ出しています。降雪地帯の山肌を荒らすスキー場もここ20年にゴルフ場と同様に2000m以上の山岳地帯にも進出し森林伐採が加速されています。これらはさまざまな時代の日本全国の5万分の1地形図から読み取った自然改変のマクロ的な傾向の一端を書き出したものです。

■埼玉県東部の自然改変の歴史

埼玉県東部を占める平野部は現在、東から江戸川、中川、古利根川、元荒川、綾瀬川、芝川、荒川、入間川と数多くの河川が北西から南東へ流れ下っています。江戸時代まで利根川は、今の古利根川のルートで東京湾へ流れ込んでいました。現在の荒川は、元荒川を熊谷から南東へ流し入間川のルートにつなげたものです。

埼玉県東部は典型的な沖積平野でその原風景はおおよそ次のようなものと考えられます。蛇行して流れる数多くの河川は自然堤防と後背湿地を形成し、自然堤防にはハンノキが、後背湿地にはヨシが繁り低層湿原を形成していました。河川の間には見沼の様な沼や河道のなごりの三日月湖の様な湖沼が点在しています。一面のヨシ原の沖積平野の中に島の様にある大宮台地の様な台地には、シヤ

タブなどの常緑広葉樹の黒々とした森があります。

江戸時代、このヨシ原は何代にも亘る干拓事業により水田化されました。それが見沼代用水のような農業用水事業を生み出しました。自然堤防の上には農家が集落を作り、低湿地にはヨシ原と水田が広がっています。タンチョウやガン類が翼を休めていたのもこのような環境です。

関東平野の自然改変の典型である埼玉県東部は、数多くの河川の流路変更がなされ、河川に囲まれたヨシ原は、まず水田へ、水田は住宅地へと時代毎に古い時代の原型を全くとどめずに自然改変が激しく行われた所です。埼玉県東部の自然環境を考えると、この事実を直視する必要があります。

■自然環境のあるべき姿を目指して！

地形図は誰でも入手でき理解できる自然改変の歴史を知る重要な手がかりとなるものです。それぞれの時代の地形図は、その時代の政治経済的背景をもとに人間が社会活動を行った結果を表した統一された規格で記述され

た貴重な記録です。

あなたが住んでいる、あなたが自然観察を行っているフィールドの地域が明治以来、どのように自然改変が行われて来たかを知ることのできるのは地形図において他にありません。新旧の地形図を読み取り、地域としての政治経済的背景を歴史性を踏まえて分析し、自然環境のあるべき姿をひとりひとりが考え発言する時代に来ています。

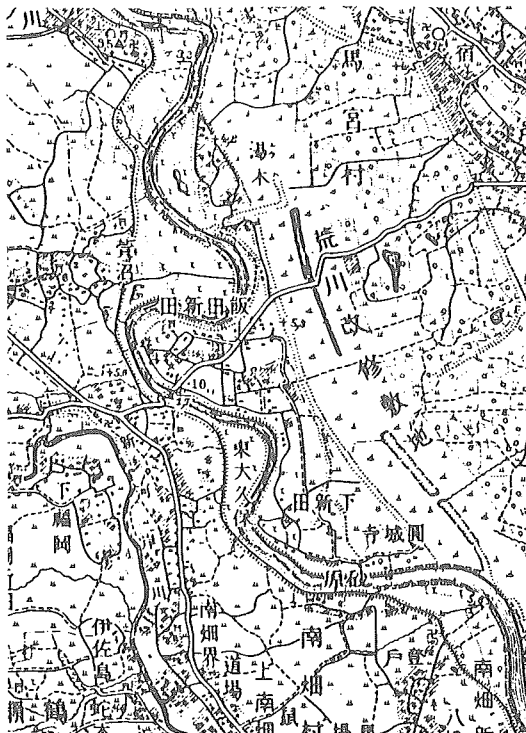
文献

小荷田行男 1985 モデルで見る根釧原野の自然とその質的变化 ワイルドライフ・レポート No.1 66~70 野生生物情報センター 札幌

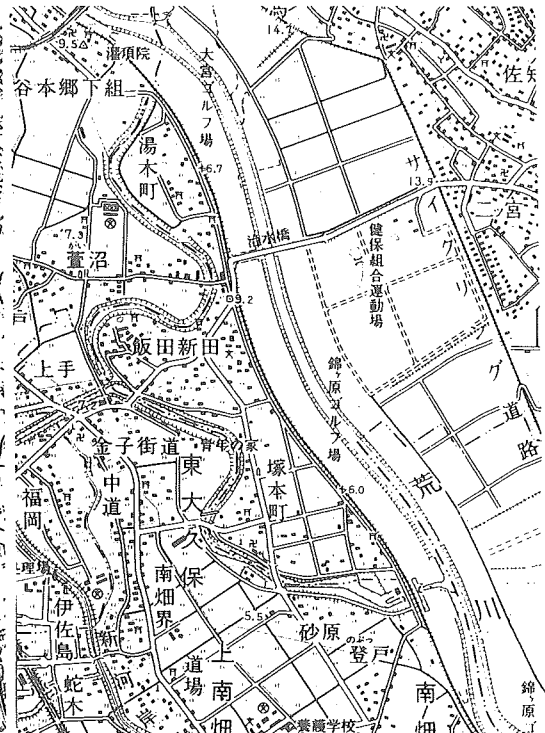
小荷田行男 1986 根釧原野における自然改変の歴史と野生生物の消長 ワイルドライフ・レポート No.4 69~81 野生生物情報センター 札幌

小荷田行男 1987 根釧原野における自然改変による生態系の変化 No.5 35~50 野生生物情報センター 札幌

(小荷田行男)



地理調査所発行 昭和4年鉄道補入版
5万分の1地形図「大宮」より



国土地理院発行 平成2年修正版
5万分の1地形図「大宮」より

クロツラヘラサギとツリスガラ

野鳥記録委員会

昨年末、戸田市から浦和市に広がる荒川調節池（工事中）にクロツラヘラサギ（写真）が飛来した。県内では、1987年12月から1988年3月まで本庄市の利根川阪東大橋下流で滞在していたことがあるが、それ以来2回目の記録であり、今回も、初列風切りの先が黒いなどの特徴が見られる若鳥である。

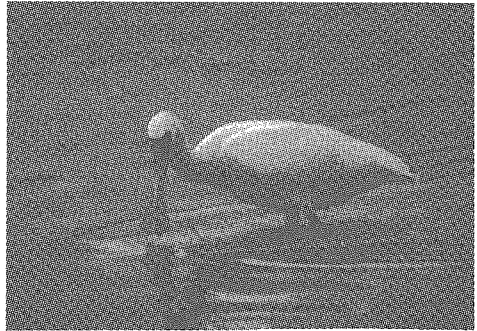
複数の観察者の報告を総合すると、飛来したのは1992年12月27日で、翌93年1月5日まで滞在した。12月26日までと1月6日以後は千葉県谷津干潟で観察されていて、その間は観察されていないことと、若鳥である特徴が一致する事などから、同一個体と思われる。2月13日現在は、葛西臨海公園で観察されているという。

クロツラヘラサギは中国東北地区の一部と朝鮮半島南西部の島で繁殖するが、世界で生存しているのは約300羽にすぎないとも言われ、絶滅寸前の稀少種である。そのうち200羽程が台湾で越冬していることが、最近発見されている。

荒川調節池では、くちばしを左右に動かして小魚を捕食の様子や、枝をくわえて遊んだりしている様子などが観察された。

一方、埼玉新聞などの報道によると、1993年1月30日、北葛飾郡庄和町の江戸川河川敷のアシ原で、本県で初めてツリスガラ13羽の群れが確認されて、埼玉県生態系保護協会の会員によって写真撮影されたとのこと。

ツリスガラはユーラシアの中緯度地方に分布し、日本には冬鳥として飛来する。1877年に長崎県で記録されたのが初めてで、その後分布を東に拡大、1988年に茨城と千葉、1990年に東京と神奈川で記録されているので、本県で記録されるのも時間の問題と見られていた。なお今年は、川崎市内の多摩川流域でも30羽ぐらゐの群れが観察されている。



撮影・海老原美夫

地 鳴 き コ ー ナ ー

カワセミは外来魚がお好き!?

毛皮の帽子（寄居町）

最近、カワセミを見ようと川原へでかけても、なかなか遭えない。川遊びをする人が多いせいか、エサの魚がないためなのか判らないが、なぜか見られない。

どこへいったのかと捜してみると、カワセミたちは周辺の農業用ため池で元気にエサを獲っていた。エサを獲ったカワセミを双眼鏡で覗くと、何とブルーギルをくわえているではないか。観察し続けると、確かにブルーギルばかりを捕まえている。その答えは、水面を見て判った。ブルーギルは水面に落ちてくる昆虫を捕食するために水面近くにとどまっているのである。さらに群れを作る習性もあり、岸辺近くの水面にはかなりの数のブルー

ギルが浮いている。カワセミにとっては、この上ない獲物である。外来魚として嫌われているブルーギルも意外なところで役に立っているようである。

ところで、ブルーギルの体高は、ほかの川魚に比べると著しく高い。まあ、骨が砕けるほど獲物をたたき付ける技を持ってすればそう苦勞する事なく飲み込めるだろう。しかし、たたき付ける回数は増え、その分勞力を使うことになる。エサを食べるためには、結局、苦勞しなければならない。

カワセミが好んでブルーギルを捕食しているか否かは判らないが、カワセミはこの外来魚を受け入れエサとしている。野生とは、何ともたくましいものである。

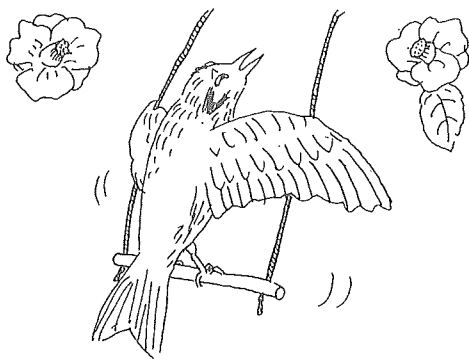
宮崎の風邪だより

押川歳子 (宮崎市)

いつもお世話になります。

この冬宮崎は暖冬です。今日は立春ですが気温18度以上あって動いていると汗ばんでくるほどです。

我家の前の空気が整地され、木もなくなっ



押川歳子

てしまったのでたくさん来ていたヒヨドリもすっかりいなくなっていました。ささやかなエサ台にも寄ってきません。毎日来るのは、モズ・ジョウビタキ・ハクセキレイ・スズメぐらいになりました。でもこの冬は、ヒヨドリがやって来て目を楽しませてくれています。倉庫の階段とか、トラックの大きなタイヤの上とかが気に入っているようです。それから、先日はイタチが庭を通って行きました。こちらの探鳥会は数も少ないですし、場所も遠いところが多いので(私は方向感覚というものを持ちあわせていない)、なかなか行けません自分なりのペースで楽しんでいます。

この冬は風邪が大流行していますので、皆様お気をつけ下さい。ちなみに私は年末からしっかり寝込んでしまいました。これからもよろしく願い致します。

白頭鷺の英名講座第5回

Spoon-bill 一スプーン状の嘴

今までに「広幅の嘴」、「シャベル型の嘴」、それに「スポットのある嘴」等がでてきましたが、今月は“Spoon-bill”(スプーン状の嘴)をひろってみました。面白いことにこの場合完全に和名と英名が一致して“スプーン”を和名では“籠(へら)”と呼んでいます。

1. Spoonbill 一へらサギ
2. Black-faced Spoonbill 一クロツラヘラサギ
3. Spoon-billed Sandpiper 一へらシギ

厳密に言えば“スプーン”と“へら”では、完全に一致とは言えないかも知れませんが、語呂から言っても“しゃもじ”では鳥名としてはいただけません。おそらく、その辺りの語感から“へら”を当てたものと思われ

ます。さて、この三種ともそう簡単にお目にかかれる代物ではないのです。その機会さえあれば一目瞭然、これに違いないと断定できるのですが、なかなかその幸運に恵まれません。私も Black-faced Spoonbill (クロツラヘラ

サギ)にはあの阪東大橋でやっとのこと1988年1月15日に“お目にかかれ”ました。

なお、Black-faced Spoonbill、即ち、“黒い顔をした”または、“黒い顔を持った”何々と言う表現方法は英名の表記にはごく一般的に使われます。日本語では単に名詞を列記して一黒+顔(面)+へらサギという形が成立します。英語では名詞のみを列記して Black Face Spoonbill としますと、何か片言めいた感じがします。そのためか、“---ed”として“---の特徴をもった”という形で形容するのです。

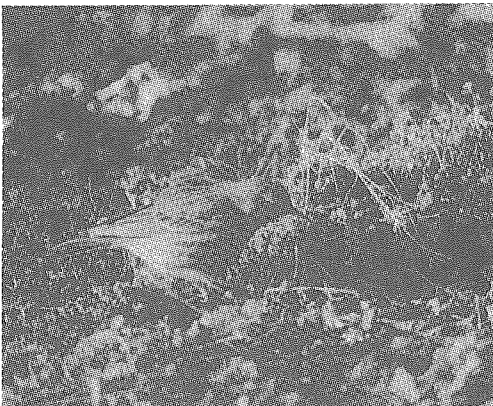
すでにお話をした、“Broad-Billed Roller” “Broad-billed Sandpiper”、“Spot-billed Duck”など全て同じ用法で“こうこう、こういう嘴をした、嘴の、又は、嘴をもった”という表現をしているのです。

今回は誰がみても気になるあのながーい嘴のダイシャクシギ、チュウシャクシギたちは一体どんな英名になっているんでしょう?お楽しみに!



野鳥情報

- ハジロカイツブリ ◇12月8日、戸田市の戸田橋付近の荒川で1羽(高橋達也)。
 クロツラヘラサギ ◇12月28日、戸田市道満調節池で1羽(高橋達也)。
 カルガモ(白化) ◇11月28日、行田市のさきたま古墳で全身が白い個体1羽(杉山恵次)。
 トモエガモ ◇12月1日、戸田市の戸田橋付近の荒川でヒドリガモ群れ中に♀1羽(高橋達也)。
 ヨシガモ ◇11月29日、戸田市道満調節池で♂3羽♀1羽(高橋美保子)。◇12月1日戸田市の戸田橋付近の荒川でヒドリガモ群れ中に♂1羽(高橋達也)。
 アメリカヒドリ ◇11月29日、戸田市道満調節池で♂1羽(高橋美保子)。◇11月29日富士見市の新河岸川、伊佐島橋~南畑橋間で♂1羽(中司隆由)。
 ミコアイサ ◇12月5日、戸田市道満調節池で66羽。翌日、6日には、同所で64羽(有山智樹)。
 カワアイサ ◇12月20日、戸田市道満調節池で♂1羽(高橋達也)。
 ハイタカ ◇11月28日、本庄市の阪東大橋下流で1羽。上空を旋回する(井上幹男)。
 チョウゲンボウ ◇12月5日、春日部市増田新田の自宅付近で1羽。南東方向からハンブトガラスの一群にモビングされながら北



(タヒバリ 若松淳平)

- 方へ飛ぶ。1~2分後、カラスはモビングをやめ南東方向へ1羽1羽ばらばらになって戻る。(石川敏男)。◇12月10日午前7時40分、大宮市膝子で1羽。出勤途中の車の中から見る。(藤原寛治)。
 バン ◇11月23日、朝霞市田島2丁目の朝霞ガーデン(釣り堀)横の沼で2羽。ここで越冬するらしい(宇賀神若人)。
 タゲリ ◇11月14日、富士見市役所すぐ前の田んぼで32羽。柳瀬川ならともかく、こんな所に渡ってくるとは、今まで聞いたこともありませんでした。(中司隆由)。
 イソシギ ◇12月28日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷で1羽(高橋達也)。
 セグロカモメ ◇12月6日、越谷市の古利根川で1羽(山部直喜)。
 オオコノハズク ◇12月21日、北本市石戸宿で1羽。巣箱から顔を出していました。(吉原俊雄)。
 フクロウ ◇12月16日午前10時、大宮市日進1丁目で1羽。職場の同僚が、実験室にフクロウみたいな大きな鳥がいると知らせたので、行ってみると、まさしくフクロウであった。ケガをしている様子もなく、飛んだので、入り口を開けてやると、ゆったりと飛び去った。朝から周りでカラスが騒いでいたという事で、外に出てからも、カラスに追われていたので、小さく開いていた扉から逃げ込んだのだらうと思われた(森本國夫)。
 カワセミ ◇11月28日、川口市差間の見沼自然の家付近で1羽(出戸真佐子)。
 アオゲラ ◇1月2日、秩父市の羊山公園で1羽(山岸昭治)。
 アカゲラ ◇12月4日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で♂1羽。秋口には、幼鳥と一緒に行動していたが、今は単独になっている(有山智樹)。◇12月21日、北本市石戸宿の北里メディカルセンターの遊水池の近くで♂3羽♀2羽。3羽を同時に見ました(吉原俊雄)。◇1月2日、秩父市の羊山公園で1羽(山岸昭治)。
 ヒヨドリ(バフ変個体) ◇12月20日、戸田市道満で1羽。全身が赤みを帯びた白色で

よく目立った。(有山智樹)。

ミソサザイ ◇11月28日、児玉郡神川町の金
讃神社付近で1羽(森本國夫)。◇12月14
日、坂戸市城山で1羽(増尾節子)。

ルリビタキ ◇11月28日、北本市石戸宿北側
の斜面林で♀1羽。ジョウビタキのオスと
追いかっこをしていた(立岩恒久)。◇
1月2日、秩父市の羊山公園で1羽(山岸
昭治)。

トラツグミ ◇12月21日、北本市石戸宿の自
然観察公園で1羽(吉原俊雄)。◇1月1
日、秩父市美の山で1羽。山の道を歩いて
いると、前方7~8メートルを羽音を立て
て横切る(山岸昭治)。

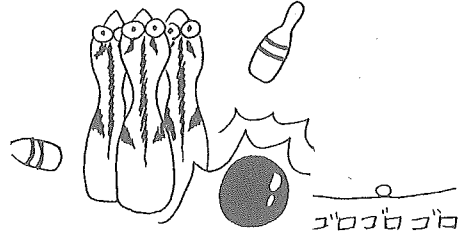
エナガ ◇1月1日、秩父市の羊山公園で多
数(山岸昭治)。

コガラ ◇11月15日、三峰山で1羽(山岸昭
治)。◇1月1日、秩父市の羊山公園で1
羽(山岸昭治)。

ヒガラ ◇12月4日、浦和市秋ヶ瀬の野鳥園
で2羽。堀沿いの針葉樹から近くの桜の枝
に出てきた。体をクルクル左右に回転させ
ながら鳴く。秋ヶ瀬で本種は珍しい(有山
智樹)。

ヤマガラ ◇12月4日、浦和市秋ヶ瀬の野鳥
園で1羽。9月頃はたくさん見られたが減
ってしまった(有山智樹)。◇1月1日秩
父市の羊山公園で2羽(山岸昭治)。

ミヤマホオジロ ◇12月4日、浦和市秋ヶ瀬
の子供の森で♀1羽。昨年と同じ場所で越
冬中(有山智樹)。◇12月12日、北本市石
戸宿の自然観察公園で♂2羽(吉原俊
雄)。◇12月21日、浦和市秋ヶ瀬のゴルフ
場裏手で♂1羽。双眼鏡で短い冠羽のシル
エットを確認。急いで望遠鏡にて黄色い顔
を確認した(横山初夫)。◇1月2日、秩



(高橋美保子)

父市の羊山公園の桑畑の間を通る道で♂1
羽(山岸昭治)。

マヒワ ◇12月6日、浦和市秋ヶ瀬で10~20
羽の群れ。4~5分あちこちの木にとまり
乱舞。カシラダカが、ビックリして逃げ出
す(横山初夫)。◇12月20日、戸田市道満
で30羽以上の群れ。秋ヶ瀬で越冬中の群れ
が遠征して来た様である。木々の間を騒が
しく飛びまわった。オスは感心するほど美
しい(有山智樹)。◇12月21日、浦和市秋
ヶ瀬のゴルフ場裏手で若鳥も含めて30~40
羽の群れ(横山初夫)。

ベニマシコ ◇1月1日、秩父市の羊山公園
の桑畑の間を通る道で♀1羽。やわらかな
声で鳴くのを15分程ねばって、とうとうス
コープに入れて夫婦共に笑顔。1月2日、
同所で♂♀各1羽(山岸昭治)。

ウソ ◇12月14日午前11時10分、坂戸市城山
の雑木林で♂1羽。午後0時14分、アカウ
ソ1羽。昨年より早い確認(増尾節子)。

オナガ ◇11月17日、浦和市太田窪で39羽。
市街地でこんなに見られるなんて驚き(田
口浩司)。

表紙の写真

ニッパ-フォトコンテスト1992 入選作

ウソ(アトリ科)

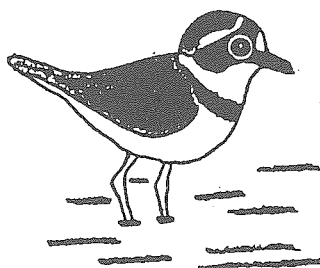
ウソが、桜のつぼみを好んで食べるこ
とは、良く知られていますが、移動の途中
に立ち寄った舩倉島では、桜の花よりも、
むしろ、地面に生えているタンポポの種
や、ナズナや、その他の草の实の方を好ん

で食べていました。

しかし、ウソにタンポポではウソっぽい
ので、ウソはウソらしく、桜の花を食べ
ているところの写真にしました。

登坂久雄(八王子市)

行事あんない



(佐藤方博)

北川辺町・渡良瀬遊水池探鳥会

期日：3月13日(土)

集合：午前9時10分 東武日光線柳生駅前

交通：JR東北線(宇都宮線)大宮8:12発に乗車、栗橋で東武日光線8:52に乗り換え。

担当：中島(康)、松井、入山、山岡

見どころ：チュウヒ、ノスリ、オオタカなど、空の王者たちが次々に登場。貯水池にはカモの大群。渡良瀬のぜいたくな自然を心ゆくまでお楽しみ下さい。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：3月14日(日)

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:20発または秩父鉄道寄居9:03に乗車

担当：菱沼(一)、森本、林(滋)、関口、菱沼(洋)、斉藤、塚本、中島(章)、川島

見どころ：さよならコハクチョウ。シベリアに帰るコハクチョウに別れのご挨拶。明戸堰上流も来シーズンは禁猟区になる予定です。彼らやカモ達もきっと大喜びすることでしょう。

川越市・西川越探鳥会

期日：3月14日(日)

集合：午前9時 JR川越線西川越駅前

交通：JR川越線大宮8:34、川越8:56

担当：佐久間、乗田、長谷部、石井(幸)

見どころ：北へ帰るタゲリやカシラダカ、カ

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。受付は探鳥会当日。参加費は一般100円。会員及び中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時ごろになります。

◇はじめて探鳥会に参加される方へ◇

集合場所へ着いたら、まず“日本野鳥の会埼玉県支部”の旗か、青い腕章をつけた担当者を探して、遠慮なく声をおかけ下さい。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

モノ仲間。常連のカワセミ君と一緒に
お見送りしましょう。

秩父市・羊山公園探鳥会

期日：3月20日(土・祝)

集合：午前9時40分 西武線西武秩父駅前

交通：秩父鉄道熊谷8:22に乗車、御花畑下車、徒歩5分/西武秩父線所沢8:22発快速急行に乗車

担当：海老原、福井、林(滋)、小林(み)

見どころ：当りはずれの大きい探鳥地。もしはずれたら、ただ運が悪いだけ。ウソやマヒワなど、色鮮やかな小鳥たちに出会えたら、リーダーのお陰です。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：3月21日(日)

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口(集合後、バスで現地へ)または、午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、渡辺、手塚、伊藤、笠原、田口、馬場、岡部、嶋田

見どころ：春がやってきました。コブシやモクレン、レンギョウが咲き乱れています。そして、冬鳥と夏鳥の交替のとき。萌えいずる三室の春を楽しみにして下さい。

浦和市・見沼ヘルシーロード探鳥会

期日：3月27日(土)

集合：午前9時 大崎事業所裏の芝生のグラ

ンド

交通：JR浦和駅西口1番バス乗り場より大崎園芸植物園行き8:18発またはさぎ山記念公園行き8:32発に乘車、大崎園芸植物園下車

担当：伊藤、楠見、草間、笠原

見どころ：桜もほころび始めた春の見沼田んぼ。ツバメを探していつものようにノーンビリ歩きます。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：3月27日（土）午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局

案内：支部会員はどんどん増え続けていますが、袋づめのお手伝いの方は、あまり増えていません。応援をお願いします。

野鳥写真クラブ定例会

とき：3月27日（土）午後2時ごろ～5時

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

案内：北の港を群れ飛ぶカモメ、粉雪の中の赤い鳥…冬鳥たちとの出会い、スクリーンの上でもう一度。

狭山市・入間川探鳥会

期日：3月28日（日）

集合：午前9時 西武新宿線狭山市駅西口

解散：正午頃、稲荷山公園にて

担当：長谷部、三田、石井（幸）、佐久間、柳原、小野、山本、中村（祐）

見どころ：南の国から春を運んでくるツバメたち。そして入間川のカモたちが北の国へ春を告げに旅立つのももうすぐ。

三浦半島・城ヶ島探鳥会

期日：3月28日（日）

集合：午前10時 京浜急行三崎口駅前 集合後、バスで現地へ。

交通：京浜急行品川8:33発特急に乗車

担当：小林（み）、草間、黒田

見どころ：海辺の鳥たちを訪ねて、潮の香りの中を歩きます。巣材を運ぶクロサギや、さえずるイソヒヨドリに会えるかもしれません。

注意：すべりやすい岩場があります。しっかりした靴でお越し下さい。

三宅島探鳥会（要予約）

期日：4月23日（金）夜行～25日（日）

集合：23日20時 JR山手線・京浜東北線浜松町駅東京寄り改札口

帰着：東京港に25日19時20分頃到着の予定

費用：18,000円の予定（1泊3食、往復交通費、保険など）。他に島でのバス代若干

定員：20名程度（先着順、県支部会員優先）。

申込み：往復葉書に住所・氏名・電話番号・年齢・性別を明記して榎本秀和まで

担当：榎本、菱沼（一）、岡安、内藤

見どころ：島と海と鳥の旅、アカコッコやイジマムシクイのさえずりのシャワーを体験してみませんか。帰りの船上探鳥では、海鳥も大いに期待できるはず。宿では海の幸もお楽しみに。

注意：23日は船中泊となります。

奥日光探鳥会（要予約）

期日：5月8日（土）～9日（日）

集合：午前8時 大宮駅東口あさひ銀行前

交通：貸切りバス利用

費用：21,000円の予定

定員：35名（先着順、県支部会員優先）

申込み：通常葉書に住所・氏名・電話番号・年齢・性別を明記の上、中島康夫

まで

見どころ：コマドリ、キビタキ、ノビタキなど夏鳥がいっぱい。夜の温泉も楽しみ。第2土曜は学校もお休み、ご家族そろっての参加も大歓迎です。

4月4日（日）石戸宿定例探鳥会
差間探鳥会

これからの遠出探鳥会（要予約）の予定
戸隠・飯綱探鳥会：5月22日～23日（土・日）
浮島湿原探鳥会：6月12日（土）日帰り
詳細は来月号をご覧ください。

行事報告

9月27日(日) タカの渡り調査
ボランティア: 53人 天気: 晴

阿久津裕子、荒木恒夫、伊藤芳晴、岡野 強、小淵健二、笠原伸子、加藤たま子、楠川雅之、栗原省三、栗原照子、黒沢正明、佐久間博文、桜庭 勇、佐藤 進、佐藤方博、篠原東彦、嶋田和江、新堂克浩、墨江光子、墨江雄三、関根秀行、滝澤 修、田口浩司、田中潤子、手塚正義、登坂久雄、登坂ひろみ、内藤義雄、中村榮男、中村俊彦、馬場 昇、林 滋、菱沼一充、菱沼洋子、福井 亘、藤野富代、逸見 嶮、星野晴夫、堀越省一、中島郁夫、増尾節子、増尾 隆、町田好一郎、松井昭吾、松本生男、森 静子、森本國夫、矢野高文、山口輝雄、吉田喜代実、吉田時規、吉原俊雄、和田康男

良い天気にもまれたこの日、神川町の岩山展望(金鑽神社そば)、寄居町の鐘撞堂山、東松山市と鳩山町にまたがる物見山、都幾川村の堂平山、飯能市の天覧山、所沢市堀之内の6ヵ所で調査が行われた。皆様、どうもご苦労様。

10月4日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水池
参加: 60人 天気: 晴

カイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ハシビロガモ トビ ハイロチュウヒ チュウヒ コジュケイ ツルシギ アカアシシギ タシギ キジバト カワセミ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ キセキレイ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(34種) 好天に恵まれ、沢山の参加者があった。お目当てのミサゴは見られなかったが、小さな池の干潟で、県内では珍しいアカ

アシシギが見られた。また、カケスが20羽位の群れで、何十組も渡って行く姿も見られた。いつ行っても、すばらしい渡良瀬。開発されないように見守って行きたいところだ。

(中島康夫)

11月7日(土) 栃木県 奥日光
参加: 15人 天気: 曇

マガモ コガモ ヒドリガモ ホシハジロ トビノスリ アカゲラ コゲラ ヒヨドリ カワガラス ミソサザイ ルリビタキ ツグミ キクイタダキ エナガ コガラ ヒガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ ウソ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス(24種) 前日の天気予報で雪が降ると言っていたためか、それとも現地集合のためか、思ったよりも参加者が少なかった。ウソやキバシリ、ゴジュウカラ、ミソサザイなどは存分に見られたが、アトリやマヒワなどの冬鳥がまったく見られなかったのは残念だった。それでも、初冬の奥日光の景観を充分楽しむことができた。

(中島康夫)

11月22~23日(日~月) 新潟探鳥会
参加: 36人 天気: 曇時々晴や雨

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ウミウ ゴイサギ アカガシラサギ ダイサギ コサギ アオサギ ヒシクイ オオハクチョウ コハクチョウ オシドリ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ ミサゴ トビ ノスリ ハイロチュウヒ チュウヒ コチョウゲンボウ チョウゲンボウ キジ クイナ オオバン タゲリ クサシギ タシギ ユリカモメ セグロカモメ ウミネコ キジバト カワセミ ヒバリ

キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ
 タヒバリ ヒヨドリ モズ イソヒヨドリ
 ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ
 ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリ
 ン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ
 ハシボソガラス ハシブトガラス (64種) 連
 休で高速道の渋滞にあい、現地への到着が予
 定より2時間も遅れてしまった。佐潟では夕
 日に染まる角田山に向かって帰ってくる白鳥
 の姿がすばらしく印象的だった。また、運の
 良い10人位の方はアカガシラサギを間近に見
 ることができた。福島潟ではオオヒシクイの
 大群とアシ原すれすれを飛ぶハイイロチュウ
 ヒの姿を堪能することができた。2日間の短
 い時間だったが、人との出会い、すばらしい
 自然との出会いに充分満足できた。

(中島康夫)

11月29日(日) 蓮田市 黒浜沼
 参加: 35人 天気: 晴

カイツブリ ダイサギ チュウサギ コサギ
 アオサギ カルガモ コガモ オオタカ チ
 ョウゲンボウ コジュケイ バン イカルチ
 ドリ タゲリ キジバト コゲラ ヒバリ
 ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ
 モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シ
 ジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ
 アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ カ
 ケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガ
 ラス (35種) 農家の庭先に柿が実り、木々も
 色づき、秋を存分に感じる一日だった。ツグ
 ミやモズ、メジロなどがよく見られた。黒浜
 沼では、コガモやカイツブリ、イカルチドリ
 なども見られた。ビギナーの方が多く参加さ
 れ、それなりに充実した探鳥会だった。

(中島康夫)

12月12日(土) 浦和市見沼ヘルシーロード
 参加: 36人 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ カルガモ コ
 ガモ オナガガモ チョウゲンボウ ユリカ
 モメ シラコバト キジバト コゲラ ヒバ
 リ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバ
 リ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ

ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ
 ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ
 シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソ
 ガラス ハシブトガラス (33種) この探鳥会
 は、いつも天気がいい。真っ白い富士山をみ
 ながら、歩いていくと公約?どおりツグミや
 ジョウビタキ、また、ヤマガラやシメなども
 姿を見せてくれた。ゆっくり、ノンビリ。ス
 トレス解消探鳥会です。 (伊藤芳晴)

12月13日(日) 所沢市 狭山湖
 参加: 28人 天気: 晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカ
 イツブリ カワウ アオサギ マガモ カル
 ガモ コガモ オカヨシガモ ホシハジロ
 カワアイサ オオタカ ユリカモメ キジバ
 ト アオゲラ コゲラ ヒバリ ハクセクレ
 イ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ
 モズ ルリビタキ シロハラ ツグミ ウグ
 イス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホ
 オジロ アオジ スズメ ムクドリ ハシボ
 ソガラス ハシブトガラス (35種) 真っ白な
 カンムリカイツブリと富士の山。青い空には
 オオタカが……というキャッチフレーズの探
 鳥会でしたが、まず対岸の枯れ木に止まって
 いるオオタカを発見。胸から腹にかけて真っ
 白なとてもきれいなオオタカをじっくりと見
 ることができました。カンムリカイツブリは
 50羽以上の大群を観察。晴れていましたが、
 風がほとんどなく、富士山は見えませんでした。
 (三田長久)



ごめんなさいコーナー

2月号で報告した、バードウォッチング
 ウィーク展のボランティアから下記の二
 人の方々のお名前が抜けていました。お
 詫びして追加させていただきます。
 大嶋己恵子、楠見文子



見沼たんぼ保全基金創設

見沼たんぼの保全活用を検討していた見沼田圃土地利用協議会が、開発を厳しく規制してきた見沼三原則全面見直しの方針を打ち出したことが報道され、自然保護団体があいついで反発。いくつかの動きの後、2月2日の埼玉新聞によれば、土屋知事は記者会見で、「三原則をただちに撤廃するとは考えていない」と述べ、さらに見沼たんぼ保全基金(仮称)を設置する方針が発表されました。

県は93年度当初予算に初年度分として約10億円を計上、将来的には関係3市や民間にも協力を要請し、数百億円規模の基金に育て、売却を希望する地権者からの買い上げ、保全を行う農家への補償などに当てたい意向。

85年度に設置した「さいたま緑のトラスト基金」でも初年度拠出は1億円であり、今回の基金の規模の大きさは注目されます。

加治丘陵も公有地化の動き

1月29日付け埼玉新聞によれば、狭山丘陵と並んで首都圏の緑の宝庫として注目される加治丘陵を保全するため、入間市は今後10年間で12億4,060万円を用意して、地権者が土地を手放す場合積極的に土地を買い取る方針が決まり、市議会に提案されるとのこと。

自然保護の世論の盛り上がりやバックに、90年に発足した加治丘陵保全等検討委員会の検討報告を受けたものです。

印刷所と校正方法変更

従来大宮市内の印刷所で印刷し、何人かの方に毎回校正をお願いしていましたが、みんなで校正の苦勞を分担できる方法を考えることとして、近くの印刷所に変更、土曜日の午後を校正日に当てることにしました。

土曜日当番の欄をご覧ください。これから

は、毎月編集会議と袋づめの会の間の土曜日に事務局で校正を行います。『しらこぼと』ができるまでに興味のある方、どなたでもお立ち寄りください。

忘れ物コーナー

2月7日裏妙義探鳥会に参加して駅にコン8×30双眼鏡を忘れた方、支部事務局で預かっています。

3月の土曜日当番(2時～6時)

- 6日 事務局休み(役員リーダー研修会)
- 13日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)
- 20日 登坂久雄 工藤洋三(校正)
- 27日 袋づめの会(1時から)

会員数は

2月1日現在 2,067人です

活動報告

- 1月16日 研究部会議、編集会議。
- 1月17日 役員会議(司会・林慎一、全国野鳥密猟対策連絡会へ支部として団体加入する件・その他)
- 1月23日 『県北見て歩き』編集会議。
- 1月29日 理事会(海老原)。



北海道東部で、釧路湿原はラムサール指定済。地元意識が高い別寒辺牛川(厚岸)湿原と霧多布湿原は指定受諾ですが、水鳥の渡りの重要な水域である風蓮湖は、別海町、根室市とも指定拒否です。農業、林業、漁業関係者の、国からの地域活性化と称する大規模公共事業への期待が、開発へのフリーハンドを要求しています。公共投資しか活性化をなし得ない地方政治の貧困が、ラムサール拒否となって表われています。(小荷田行男)

『しらこぼと』1993年3月号(第106号) 定価 100円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 東京9-121130
 印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)

再生紙使用